**第５０回SVCF院内集会ご案内**

　2011年3月11日の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発事故の収束作業は、５年が経過しようとしている現在もまだ見通しが立たないままです。

　前回の第４９回SVCF院内集会では、先行きの定かでない汚染水問題、燃料デブリや使用済み燃料取出し、さらには施設内外の放射能汚染物質処理等の問題につき、東京電力、原子力損害賠償・廃炉等支援機構、経産省から説明を受けました。今回は、同様の原発事故を起こしたチェルノブイリ原発とスリーマイル島原発の事故収束作業につき国立国会図書館の調査報告を受け、これらを比較検証しつつ福島第一原発事故収束作業の見通しについて考えてみます。

■⽇ 時：3⽉24⽇(⽊) 11：00-13：00（10：30から⽞関ロビーで⼊館証配布）􀀁

■会 場：参議院議員会館（B103会議室）􀀁

■内 容：チェルノブイリ原発およびスリーマイルズ島原発の事故収束状況􀀁

■講 師：国⽴国会図書館調査及び⽴法考査局経済産業課

■報告要旨

スリーマイル島原発事故、並びにチェルノブイリ原発事故の収束作業

・事故の内容、規模（事故状況、被害状況等）

・事故収束作業の内容、その後の経緯（事故対応組織体制、労働力供給、労働災害・被曝、事故収束のための法制、事故収束の費用、作業要員に対する補償等）